

日医ニュース

2023. 5. 5 No. 1479

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.jma.or.jp
https://www.med.or.jp/

発行所
毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



- トピックス**
- 医療従事者の安全確保に関する都道府県担当理事連絡協議会…… 2面
 - 学校保健講習会…… 3面
 - 動画「教えて! 日医君! ~今、求められるセキュリティ対策~」が完成…… 4面

松本会長

岸田総理に医療従事者の賃上げや労働環境の改善を求める

会談ではまず、松本会長が4月21〜23日に東京会場及びWEBで開催される「第31回日本医学総会2023東京」の開会式への臨席及びあいさつを岸田総理に依頼。併せて、今回のメインテーマは「ビッグデータが拓く未来の医学と医療」豊かな人生100年時代を求めてと、本格的な東京での開催は24年ぶりとなること等を紹介した。

次に松本会長は、一般の世界的なインフレによる光熱費・食料品等の価格高騰対策として、地方



釜淵敏常任理事は4月4日、「全世代対応型の院厚生労働委員会に参考

持続可能な社会保険制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案(以下、法案)について、(1)法制上明確化、(2)認定するなどの制度、(3)事前登録・医療情報登録—ではないことを確認。その

上で、かかりつけ医機能が発揮される制度整備に向けて、日本医師会が昨年11月に提言したことを紹介し、「感染症発生・まん延時(有事)においては、地域の医療体制全体の中で感染症危機時に外来診療や在宅療養等を担う医療機関をあらかじめ適切に確保し明確化しておくことで、平時に受診している医療機関がない方を含め、国民が必要

る」と述べた。また平時においては、国民に対して「医療機能情報提供制度」を分かりやすい内容に改め、フリーアクセスにおいて適切な医療機関を自ら選択できるような支援を行う一方で、各医療機関でも自らが持つ機能を磨くことにより縦糸を伸ばすことも、地域における他の医療機関との連携を通じて、地域におけるネットワークで対応していくことが望ましく、急変時においても、可能な限り地域におけるネットワークで対応を行い、必要に応じて救急搬送の依頼や、高度急性期を担う医療機関での対応を行うべきである」と提言した。

釜淵常任理事 衆議院厚生労働委員会の参考人質疑に出席

参考人質疑に出席

その後の質疑の中で、かかりつけ医の登録制の是非についての質問に対して、同常任理事は「かかりつけ医を選ぶのはあくまで国民である」と改めて強調した上で、「医師は常に患者を受け入れる準備をしている。かかりつけ医と非かかりつけ医を峻別するような制度には違和感を覚える」と述べた。



松本吉郎会長は4月11日に総理官邸を訪れ、岸田文雄内閣総理大臣と会談を行い、昨今の光熱費等の物価高騰による影響を踏まえた医療従事者の賃上げや、労働環境の改善などを強く求めた他、日本医学総会開会式への臨席を依頼した。

交付金に7000億円(推奨事業メニュー分)の積み増しが行われたことに対し、物価高騰など

物価高騰には機動的な対応を行う—岸田総理

岸田総理はこれらの要請に対し、物価高騰など

更に、現状でも厳しい

人員状況にある中で、各大学病院等から各地域の医療機関に派遣されている医師が引きあげることになれば、特に産科・救急に影響が及ぶ懸念がある」として、地域を踏まえながら、政府としてどういった対応ができるか検討していくとした。

その上で、同常任理事は、「かかりつけ医機能が発揮される制度整備に当たっては、①現行のフリーアクセスにおいて、かかりつけ医はあくまで国民が選ぶものであ

動力人口6900万人の約12%に当たる医療・介護従事者約800万人についても、賃上げの実現に向けた対応が必要であると説明。「診療報酬・介護報酬という公定価格により運営する医療機関等は、物価高騰、賃上げを価格に転嫁することができず苦心している。賃上げなどの対応を行うためには十分な原資が必要である」と述べ、令和5年度における緊急的な措置と、令和6年度のトリプル改定における配慮を強く要請した。

また、松本会長は令和6年4月より施行される医師の働き方改革によって、医師の時間外労働に對して上限規制が適用されることに触れ、医師の働き方改革を進めるに当たっては、「地域医療の継続性」と「医師の健康への配慮」の二つを両立させることが重要であると説明。

岸田総理はこの点についても一定の理解を示し、仮に懸念が現実になった場合に政府として何ができるのかも併せて考えていくとした。

岸田総理は「新型コロナウイルス感染症による各国の累計死者数」「各国の新型コロナウイルス陽性者の致死率」等は、いずれも低く抑えられている—ことを紹介。自由民主党全世代型社会保険に関する特命委員会の取りまとめにおいても、「平時におけるかかりつけ医の問題は全く別の問題である」とされていると主張した。

「かかりつけ医を選ぶのは国民

令和4年度 医療従事者の安全確保に関する

都道府県医師会担当理事連絡協議会

医療現場における安全確保を目指して活発に協議



つものだが、一度この信頼関係が崩れてしまうと、最悪の結末を迎えることにもなりかねない」と述べ、大阪府と埼玉県で起きた事件は、医療提供者に深い衝撃と悲しみをもたらしたとして、犠牲者に対し心からの弔意を示した。

また、これらの事件を受けた日本医師会の取り組みとして、医療現場での暴力の被害をいかに無くすか、あるいは万一の場合に被害を最小限にとどめるにはどうしたらよいかなどを検討するため、2022年3月に「医療従事者の安全確保するための対策検討委員会」を立ち上げたことを紹介。

その上で、松本会長は、「これらの取り組みを通じて、全国の医師会及び会員の先生方が、診療現場での暴力や暴言を切実な問題として悩まれ、対応に苦慮されている深刻な実態が明らかとなってきた。地域によっては、地元の警察との連携あるいは民間企業が提供するサービスの利用によって効果的な対策が講じられているが、日本医師会としても地域での取り組みが円滑に進められるよう、中央省庁などと連携・調整を図ってきたい」と述べた。

「このアンケート「医療従事者の安全確保に関する」が、医療現場における暴力・暴言等のハラスメント対策について厚労省の取り組みを報告。応招義務に関する基本的な考え方や医療従事者の勤務環境の改善に向けた施策等を説明するとともに、こうした問題に対し、日本医師会と意見交換しながら対応していく意向を示した。

（1）②では、前田浩一郎警察庁生活安全局調査官（警視正）が、医療従事者の安全確保に関する現状と取り組みを報告。病院・診療所における医療・保健従事者被害に係る刑法犯認知件数や被害事例などを示し、警察として講演活動や広報、訓練を行っている他、警察と地域の医師会の相互協定の締結が行われている地域もあることを紹介した。

「このアンケート「医療従事者の安全確保に関する」が、医療現場における暴力・暴言等のハラスメント対策について厚労省の取り組みを報告。応招義務に関する基本的な考え方や医療従事者の勤務環境の改善に向けた施策等を説明するとともに、こうした問題に対し、日本医師会と意見交換しながら対応していく意向を示した。

（1）②では、前田浩一郎警察庁生活安全局調査官（警視正）が、医療従事者の安全確保に関する現状と取り組みを報告。病院・診療所における医療・保健従事者被害に係る刑法犯認知件数や被害事例などを示し、警察として講演活動や広報、訓練を行っている他、警察と地域の医師会の相互協定の締結が行われている地域もあることを紹介した。

各医師会から取り組み事例を発表

松崎信夫茨城県医師会副会長は、まず、茨城県における医療機関へのクレーム対応に関する現状や県医師会への相談事例を紹介した上で、担当者レベルで解決策を提示できない事例が相当数あり、医療機関が対応に苦慮している実態を説明。「不幸な事例がいつ起きてもおかしくない状況が

県内にもくすぶっている」と述べた。

一方で、茨城県医師会では平成18年から、全国で唯一医師会が運営する医療ADRである「茨城県医療問題中立処理委員会」が運営されており、その中の「あっせん・調停会議」で事務局等の負担が軽減されているとした他、今後に向けた取り組みとして、同委員会の充実や警察・他団体との情報交換、研修会の実施の推進を挙げるとともに、事前、実際の現場、事後の対応に整理して場面ごとに適切な対応を取る必要があるとした。

連沼剛東京都医師会理事は、医療従事者の安全確保に対する取り組みとして、「トウキョウ・メディカル・サポート（TMS）」を重点医療政策の一つとして運営していることを説明。TMSは「会員が安心して医療に集中できる環境の整備」を目的に、電話・メール相談や月刊情報誌の配布、相談員（警察OBなど）同席対応などを行っており、クリニックで警察OBを雇用するのは現実的でないことから、医師会として会員を取りまとめる形で一般企業と共同でスキームを組み、費用については、東京都医師会が包括的に負担しているとした。また、医師会事務局に着信する迷惑電話の転送にも対応して

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け見直し後の応招義務について

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5月8日から見直されることに伴い、コロナに係る応招義務についても改めて整理されました。

緊急対応が必要であるか否か等、個々の事情を総合的に勘案する必要があるとした上で、患者が発熱や上気道症状を有しているまたはコロナに罹患している、もしくはその疑いがあるということのみを理由として診療を拒否することは、応招義務を定めた医師法第19条第1項に規定された「正当な事由」には該当しないこととなります。

各医療機関におかれましては、発熱等の症状を有する患者を受け入れるための適切な準備を行い、それでもなお診療が困難な場合には、少なくとも診療可能な医療機関への受診を適切に勧奨するなどの対応をお願いします。

なお、厚生労働省Q&Aによれば、適切な受診勧奨とは、例えば患者に対して対応可能な医療機関を伝えることなどが考えられるとされています。

地域医師会と警察との連携を要請

茂松副会長

茂松副会長は、記者会見等で国民への情報発信に努めていくとするとともに、警察との連携についても、警察との連携について、日本医師会として大阪府や埼玉県の事件後に警察庁に申し入れをした結果、「連携が非常にうまくいっているところもある」と説明。日本医師会と警察庁とのやりとりに対する要望としては、医療に対する国民の不信感を減らすための対応や、警察と医師会の連携の推進を求める意見があり、

「このアンケート「医療従事者の安全確保に関する」が、医療現場における暴力・暴言等のハラスメント対策について厚労省の取り組みを報告。応招義務に関する基本的な考え方や医療従事者の勤務環境の改善に向けた施策等を説明するとともに、こうした問題に対し、日本医師会と意見交換しながら対応していく意向を示した。

（1）②では、前田浩一郎警察庁生活安全局調査官（警視正）が、医療従事者の安全確保に関する現状と取り組みを報告。病院・診療所における医療・保健従事者被害に係る刑法犯認知件数や被害事例などを示し、警察として講演活動や広報、訓練を行っている他、警察と地域の医師会の相互協定の締結が行われている地域もあることを紹介した。

（2）では、まず、本協議会の開催に際して行

医療従事者の安全確保に関する担当理事連絡協議会が3月17日、日本医師会館で対面とWEB会議の併用により開催された。

中央省庁との連携調整を図る―松本会長

細川秀一常任理事の司会で開会。冒頭のあいさつで松本吉郎会長は、「医療は提供する側と患者との信頼関係の上に成り立

た。その上で、松本会長は、「これらの取り組みを通じて、全国の医師会及び会員の先生方が、診療現場での暴力や暴言を切実な問題として悩まれ、対応に苦慮されている深刻な実態が明らかとなってきた。地域によっては、地元の警察との連携あるいは民間企業が提供するサービスの利用によって効果的な対策が講じられているが、日本医師会としても地域での取り組みが円滑に進められるよう、中央省庁などと連携・調整を図ってきたい」と述べた。

また、これらの事件を受けた日本医師会の取り組みとして、医療現場での暴力の被害をいかに無くすか、あるいは万一の場合に被害を最小限にとどめるにはどうしたらよいかなどを検討するため、2022年3月に「医療従事者の安全確保するための対策検討委員会」を立ち上げたことを紹介。

同日の議事は、（1）報告（①厚生労働省から②警察庁から）、（2）都道府県医師会における取り組み（①「医療従事者の安全確保に関する都道府県医師会の取り組み状況に関する調査（令和5年3月）」の結果について（日本医師会）②広島県医師会③茨城県医師会④東京都医師会）、（3）質疑応答、意見交換―であった。

（1）①では、矢野好輝厚労省医政局総務課保健医療技術調整官と谷口倫子同局地域医療計画課外来・在宅医療対策室長

令和5年度学校保健講習会

学校保健をめぐる 今日の課題や国の取り組み等を共有



文科省から3題の中央 情勢報告

続いて、松村誠日本医師会学校保健委員会委員長／広島県医師会会長が座長を務め、中央情勢報告が行われた。

宇高章広文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課企画官はまず、新型コロナウイルス感染症の位置付けが見直されることを踏まえた学校の対応について説明。感染対策については、引き続き、文科省としても支援を行っていくとして、「感染症流行下における学校教育活動体制整備事業」などの活用

令和5年度学校保健講習会が4月2日、オンライン形式で開催された。講習会は担当の渡辺弘司常任理事の司会で開かれ、冒頭ビデオメッセージであいさつを行った松本吉郎会長は、現在の児童生徒達が抱える解決すべき課題として、「長引くコロナ禍による運動不足の問題」「スクリーンタイムの増加による近視や睡眠不足の問題」「いじめ・不登校・自殺等の問題」「家庭環境の問題」

を求めた。

学校医に関する諸課題について

は、学校医の確保が困難な地域が出てきていることを挙げ、「学校医の果たす役割の重要性からもぜひ、更なる協力をお願いしたい」と述べた。その他、令和5年度予算に盛り込まれた「学校健康診断情報のPHRへの活用に関する調査研究事業」など、学校医に係る四つの事業を紹介。子ども達の健康

を求めた。清重隆信前文科省初等中等教育局児童生徒課長は、生徒指導要領の改訂内容を概説。「生徒指導」に関しては、「発達支持的生徒指導（児童生徒への声掛け、授業、行事等を通じて、社会的資質・能力を育成する指導）」という新たな概念の導入

また、提要には個別の課題として、「いじめ」「自殺」「不登校」などが触れられているとして、その内容を説明。「学校の中だけでは対応困難な問題も増えてきている」として、「学校医だけでなく、地域の医療機関にもぜひ、その解決に向けた協力をお願いしたい」と述べた。

最近の動向としては、「特別教育に携わる教師の専門性の向上を図る取り組みが進められている」「一病気療養児の教育機会の確保のため、オンライン型の授業を認めるなどの要件緩和が行われている」「医療的ケア児への対応のため、教育委員会に対して、医療的ケア児支援センターとの連携を促している」こと

なげていきたい」と意欲を示した。

午後からは、引き続き、松村委員長が座長を務め、3題の講演が行われた。

山田泰造前文科省初等中等教育局特別支援教育課長は、2014年に日本が批准した障害者権利条約について、昨年行われた対日審査勧告に基づき、障害者権利委員会から、通常の学校に特別支援学級があることなどに懸念を示す勧告を受けたことを報告。しっかりと受け止め、対応していく姿勢を示した。

「交流及び共同学習（障害のある子どもと障害のない子どもが一緒に参加する活動）」については、「その回数を増やすべきであるが、ただ一緒に活動すれば良いというものではない」として、特別支援学級を置かず、通級による指導が実践されている事例などを紹介した。

学校保健委員会小委員会報告では、弓倉整同委員副委員長が、学校保健委員会の下に本年1月に設けられた小委員会において、令和版の学校医の手引きの作成が進められていることを報告。作成に至った背景には、学校医の成り手不足があることにも触れ、「手引きを作成することで、少しでもその問題の解決につ

政策課企画調整室長は、スポーツ庁が実施した「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果として、（1）令和元年度の調査以降、8種類の体力合計点が低下し続けている、（2）1週間の総運動時間が420分以上の割合は令和3年度より増加したが、以前の水準には戻っていない、（3）睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合が減少する一方、スクリーンタイムが「4時間以上」と回答した割合が増加している——ことなどを報告。「大変厳しい状況にある」として、文科省として、運動習慣を身に付けてもらうため、「幼児期からの運動習慣形成プロジェクトの実施」「二人一台の端末を活用した体育授業の充実」「アスリートの派遣等による体育授業等の充実・高度化の促進」などの取り組みを進めていることを紹介した。

「子ども家庭庁創設の意義を改めて強調―自見参議院議員」

自見はなこ参議院議員は、成育基本法に示された理念の実現のために行った自身の活動の成果として、（1）子どもの弱視の早期発見・治療に向けて、自治体が屈折検査機器を導入するための補助が2022年度から導入された、（2）側弯症

は、年内の閣議決定を目指す、内閣府大臣政務官として、「子ども大綱」就学前の子どもの育ちに係る基本的な指針（仮称）「子どもの居場所づくり」に関する指針（仮称）「子どもの策定に向けた検討」に取り組みしていくとした。最後に渡辺常任理事が「本日の成果をぜひ、地域医療や学校保健の現場で生かして欲しい」とあいさつを行い、講習会は終了となった。

なお、当日の様子は、今後、日本医師会ホームページに掲載する予定としている。

ニティリブ

電子書籍アプリ「日医Lib」好評配信中！

—『日医雑誌』特別号の最新刊もフルカラーで読めます—

電子書籍配信サービス「日医Lib」はスマホやPCでいつでもどこでも書籍が読めるサービスです。現在、1,300以上のコンテンツが収録されています。今後もコンテンツの充実に努めていきますので、ぜひ、ご活用下さい。

詳しくは

配信コンテンツ 拡大中！

人事課 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481
医療保険課 03-3942-6490 介護保険課 03-3942-6481
医療経営支援課 03-3942-6477 施設課 03-3942-7027 経理課 03-3942-6487
生涯教育課 03-3942-6486 広報課 03-3942-6139 編集企画室 03-3942-6483
情報システム課 03-3942-6488 日本医師会 03-3942-6135
会情報室 03-3942-6140 医学図書館 03-3942-6482
電子認証センター 03-3942-7005

動画「教えて！ 日医君！ ～今、求められるセキュリティ対策～」が完成

日本医師会はこのほど、動画「教えて！ 日医君！～今、求められるセキュリティ対策～」を制作し、4月18日から日本医師会公式YouTubeチャンネルに掲載を始めています。



ここ数年、個人や企業をターゲットとしたサイバー攻撃が急増しており、大阪府の医療機関がサイバー攻撃を受けて、地域医療に大きな影響が出たことは記憶に新しいところです。本動画は医療機関がいつサイバー攻撃の対象になってもおかしくない状況にあることを踏まえ、医療機関の皆さんにその対策を求めるために制作したものです。

動画の前半では、サイバーセキュリティの専門会社・Blue Planet-worksでセキュリティアドバイザーを務めている鳴原祐輔氏が、日本医師会の公式キャラクターである「日医君」の質問に答える形で、「サイバー攻撃の種類や手口とその目的」「どんな施設が狙われやすいのか」等について分かりやすく説明している他、日頃から行っておくべき対策や万一サイバー攻撃を受けてしまった場合の対応方法等を、個人と組織に分けて解説。また、後半では、長島公之常任理事が日本医師会の取り組みとして、2022年6月からその運用を始めた「日本医師会サイバーセキュリティ支援制度 (<https://www.med.or.jp/doctor/sys/cybersecurity/001566.html>)」について詳しく紹介しています。

ぜひ、ご覧頂き、自院のサイバーセキュリティ対策の強化につなげて頂ければ幸いです。

第43回日本医師会医療秘書認定試験 結果分析評価報告書まとまる

第43回日本医師会医療秘書認定試験結果分析評価報告書が取りまとめられ、3月15日に野田正治委員長（愛知県医師会副会長）から松本吉郎会長に提出された。本報告書は、12県医師



左から野田委員長、松本会長、釜沼常任理事


会（12校）で305名の受験生が参加して、2月5日に各県医師会において行われた第43回日本医師会医療秘書認定試験の結果について分析・評価したものである。今回の認定試験は、受験者数305名中、合格者は267名、合格率は87.5%、平均点は62.9点であった。総括の中では、医療秘書について、医療現場においてはチーム医療の一員としての役割が求められるとともに、働き方改革関連法の施行により、医師の環境改善に寄与することが大きく期待されると指摘。今回の試験の内容については、前回の試験の悪かった「からの構造と機能」の成績が上がったことは評価に値する一方、「医の倫理」を始め多くの科目で成績が下がる結果となったことを憂慮し、医療秘書認定試験委員会における出題内容のより一層の検討も必要としている。また、「日本医師会認定医療秘書」に関しては、充実したカリキュラムを課して養成しており、質が確保されていることから、これを医療秘書養成の基準とすべきと主張。更に今後、その認知度をより高めるための方策として、診療報酬算定要件に本認定試験を位置付ける等の方策を引き続き求めていきたいとの考えを示している。

南から北から

福岡県
早良区医師会誌
第184号より

母のオープン料理

金光 紀明



オープンを使った料理を母がよく作ってくれていた。その中でも「ロー

ストビーフ」は絶品で、デミグラスソースと、薄く切れば切るほどおいしい塊肉を、誕生日などにお祝いして作ってもらっていた。肉の部位は「トモサンカク」。他の部位でもおいしいけれど、その部位だと格別。試行錯誤の末「トモサンカク」にたどり着いたのだと母は言っていた。

肉の周りにすりおろしたニンニク、塩こしょうをたっぷり塗り付け、オープンに掛ける。デミグラスソースは必ずみじん切りのタマネギを炒め加える。母は仕上げにオープンの受け皿に落ちた肉汁を加えていた。その味が忘れられず、さすがにガスオープンは無理なので大きめの電子レンジみたいなウォーターオーブンを使った(家内で作ってもらった)。そのせいか肉汁が出てこないで、僕にはその「デミグラスソース」がでなかつたが、家内がいろいろ味の調整をしてくれてそ

の味は完コピされた。ウォーターオープンは「鶏の丸焼き」ができる大きさを基準で選ぶ。中に詰め物をするその詰め物に魔法が掛かるが、母が作ってくれていた詰め物は、まだ再現できない。パンの耳を詰めただけでも十分おいしいが、その詰め物と食べる鶏肉は本当に別格だったのだ。

も、担当病室の患者さんから「先生が一番上手なんだ。下なのに上の先生方に随分と態度が大きいと思っていました」と言われた時にはへこんでいました。

昔、「貴塚がある(老け顔の)新入医局員が教授の時に書記役で教授の向かいに座っていたら、入ってきた患者さんが、新入医局員の貴塚に感わされて新入医局員の前に座ったため、教授の方が淡い顔をした」という伝説を先輩に聞き、その新入医局員の先生の実名を聞いて妙に納得した覚えがあります。


しかし笑い話なら良いのですが、自分がいつまでも若造に見られているのはさすがにつらいものです。

「サーモンパイ」も普通のレシピにはない秘密があり(ゆで卵と春雨を入れるとおいしくなります)、記憶をたどって大体同じ味ができるようにしたのが、最近サーモンが高くてなかなか作れません。「フランス風ハンバーグ」という、トマトソースにハンバーグをのべたものです。

岩手県
岩手日報
NO.855より

医者と童顔

渡邊 立夫



私は、医者という職業に童顔(若く見える)は百害あって一利無しだと思っています。私は童顔でしたが、残念ながら決して美男子ではありません

ん。一言で言うと貴塚がなかったのです。私の入局直後は当然ですが、入局して3~4年経ち、後輩達が入局してきて少しだけ偉くなって

ンテラが非常に楽です。診断する時はもちろんのこと、たとえ診断が分からなくて、「ゴメン、分からぬ」と言っても患者さんは許してくれ優しくしてくれます。診療がスムーズで楽しくてあまりまじりません。医師としての寿命のろうそくの火が消える寸前に、一瞬、明るくなるような、神様からのご褒美でしょうか。

最近医学の進歩が著しく、私が現役の頃は不治の病と言われていた疾患が治癒するものとなり、あるいは治療率が著しく向上している。近い将来、悪性腫瘍もほとんどは治癒可能な疾患となる日が来るのではないかと期待しているところである。このような治療の進歩の中で、ごく普通にみられる疾患の治療に案内手こずっていることもある。「不眠」「脱毛」などがそれに当たるのではなからうか。

長野県
松本市医師会報
第655号より

眠剤としてのバツハ

小平 潔



私は眠れない時に眠剤はあまり使用せず、やや難解な書物でも読んでいると眠気を催したものだ。当時の貴族達もいろいろなことを試したらしい。ドイツの貴族ヘルマン・カール・フォン・カイザーリンク伯爵も不眠症で悩んでいたが、彼は睡眠剤ならぬ睡眠音楽を寝室の隣の部屋で演奏させていた。子守歌的な効果を期待したのである。

私か医師になりたての頃から男性型脱毛症(AGA)は厄介な疾患であった。内分泌治療を含めた種々の療法が行われた

であったからかも知れない。一方「不眠」の方は現在と同様(特に貴族階級の人達が)苦しんでいたらしい。貴族の人達は社交に明け暮れ、夜半に及ぶ宴会、パーティーの連続ともなれば不眠症にもなる。彼らのせいにく病の一つだったかも知れない。

私は眠れない時に眠剤はあまり使用せず、やや難解な書物でも読んでいると眠気を催したものだ。当時の貴族達もいろいろなことを試したらしい。ドイツの貴族ヘルマン・カール・フォン・カイザーリンク伯爵も不眠症で悩んでいたが、彼は睡眠剤ならぬ睡眠音楽を寝室の隣の部屋で演奏させていた。子守歌的な効果を期待したのである。

彼の選んだ音楽はチェンバロの演奏で、才能豊かなゴールドベルク少年(当時14歳)に演奏させていた。このゴールドベルク少年はフリーデマン・バッハやその父であるセバスティアン・バッハにも師事し、すでに相当な腕前をもちいていた。またカイザーリンク伯爵もかなりの音楽好きで、セバスティアン・バッハのオルガン曲を好んで聴くような素養のある人物であった。このような耳の肥えた人物の前でチェンバロの名手が弾くのであるから、どうも「子守歌」効果は十分に期待できないという皮肉な結果となった。眠くなるどころかその演奏に聴き入ってしまうこともあったらしい。

その結果はどうだったのであろうか? カイザーリンク伯爵は見事に眠ったということになっていて、この曲は演奏に約50分を要する大曲で、演奏者にとっては眠るところが大変な緊張を強いられる作品である。私もこの曲をCDで聴いたことがあるが、睡眠効果は絶大であった。大体第10変奏辺りまでくると効果が現れる。従って私はこの曲を全部聴き通したことはまだ一度もない。

その結果はどうだったのであろうか? カイザーリンク伯爵は見事に眠ったということになっていて、この曲は演奏に約50分を要する大曲で、演奏者にとっては眠るところが大変な緊張を強いられる作品である。私もこの曲をCDで聴いたことがあるが、睡眠効果は絶大であった。大体第10変奏辺りまでくると効果が現れる。従って私はこの曲を全部聴き通したことはまだ一度もない。

(一部省略)

案内



シンポジウム 「未来ビジョン、若手医師の挑戦」

日本医師会では、全国各地で活躍する若手医師の取り組みを取り上げ、その思いを共有する中で、国民の信頼に堪えていく医療の「未来ビジョン」を探ることを目的として、本シンポジウムを開催することといたしました。

当日の様子は、日本医師会公式YouTubeチャンネルにおいてライブ配信いたしますので、ぜひ、ご視聴下さい。

◆日時：6月11日(日)午後1時30分～4時

◆プログラム：
・松本吉郎会長あいさつ
・シンポジウム
①研修医に向けた実りある臨床研修制度の実践
「屋根瓦塾KYOTO」による研修医ネットワークの取り組み(仮)〔堀田祐馬京都府医師会理事〕
②若手女性医師の活躍を支える取り組み
「医療人キャリアセンターMUSCAT」の取り組み(仮)〔片岡仁美岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT顧問〕
京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター教授
③医師会と協力して取り組む在宅医療

「在宅医療で活躍するKISA2隊の取り組み(仮)」「守上佳樹よしき 往診クリニック院長」
④医師会で活躍する若手医師の取り組み
「生駒地区医師会理事としての取り組み(仮)〔北

第28回日本医師会 認定健康スポーツ医制度再研修会 (Web開催)

認定健康スポーツ医の受講の機会を増やすため、このたび、再研修会を開催します。

ぜひ、この機会を利用して受講下さい(プログラムは1月22日に開催した第27回と同じ内容になります)。

◆主催：日本医師会
◆後援：厚生労働省、スポーツ庁

◆日時：6月18日(日)午前10時～午後4時10分

◆開催形式：オンライン開催(日本医師会Web研修システム使用。ただし、オンデマンドの受講ではありません)

◆参加者：日本医師会認定健康スポーツ医
◆参加費：日本医師会員 6000円(税込)、日本医師会非会員 9000円(税込)

和也生駒地区医師会理事) ⑤指定発言(小柳亮日本医師会未来医師会ビジョン委員会委員長)
⑥フロアを交えた意見交換
※なお、シンポジウムの詳細は左記の日本医師会ホームページをご確認下さい。

◆受講方法：受講者はご自身の端末(スマホでの受講はできません)から、日本医師会Web研修システムに接続し、リアルタイムで動画をご視聴下さい。その際には、講義ごとに、受講ログを記録します。

また、「視聴コード」を入力頂くことにより、出席確認を行うことになっておりますので、必ず入力願います。

◆申込方法：日本医師会Web研修システムからお申し込み下さい(非会員の一部はSogefiフォームから申し込みとなります)。

◆申込締切：6月11日(日)午後11時59分。ただし、非会員の一部は6



7月7日(水)午後5時30分まで。

◆主なプログラム：
・講演①：「運動・身体活動と健康の科学的エビデンスとガイドライン」(小熊祐子慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授)
・講演②：「保健指導、行動変容の支援」健康日本21、保険者による保健事業等の改正を踏まえて」(津下一代女子栄養大学特任教授)
・講演③：「循環器疾患の運動療法」(牧田茂埼玉医科大学国際医療センター心臓リハビリテーション科教授)
・講演④：「慢性腎臓病の運動療法」(腎臓リハビリテーションのエビデンス)〔上月正博山形県立保健医療大学理事長・学長〕
・講演⑤：「健康スポーツ医の活動の実際」(染谷泰寿染谷クリニック院長、鈴木大輔NHKテレビ・ラジオ体操指導者) med.or.jp

◆修了証：6月28日(水)以降、受講ページにログインしてダウンロードして下さい。

◆問い合わせ先：日本医師会健康医療第一課(☎03-3942-6138(直)、kass@do.jp)

第57回臨床検査精度管理調査

臨床検査精度管理調査は、臨床検査の質的向上を図ることを目的として、昭和42年から日本医師会が毎年実施している調査である。

今年度も以下の要項により、本調査を実施することになったので、ぜひ参加願いたい。

◆参加対象施設：病院・診療所等に付設する臨床検査室等、医師会臨床検査・健診センター、登録衛生検査所、健診機関及び臨床検査を日常業務と

して実施している機関とする。

なお、試薬・機器メーカーについては、集計から除外する。

また、検体測定室については、診療の用に供さない検体検査と定義されていること、使用される測定機器に対して適切な調査試料が提供できないことから対象外とする。

◆実施時期：9月・10月

◆検査項目：50項目(施設外に委託している外注項目は除外する)。

ただし、検体検査院内委託(いわゆるフランチャイブ)の場合は、ぜひ参加願いたい。

◆参加申込方法：登録のある施設の方は、5月上旬に送付する実施要項に従い、WEBから申し込み願いたい。

なお、初めて参加する場合は、日本医師会ホームページ内の臨床検査精度管理調査のサイト(https://www.jagc.jp/)から施設登録を行った上で、登録のある施設と同様の方法で申し込み願いたい。

◆参加申込受付期間：5月15日(月)午前9時～6月16日(金)午後5時まで

◆参加費用：53000円(税込)(試料費、集計費、報告書作成費、送料等が含まれる。ただし、振込手数料は各施設で負担)

◆参加費用振込締切日：7月31日(月)

◆送料送付日・回答締切日：9月5日(火)

◆試料送付日：9月14日(木)

◆試薬・機器メーカー送付日：9月26日(火)(到着予定)

◆臨床検査室等送付日：9月5日(火)(到着予定)

◆回答方法：インターネット回答。紙の回答票は一切回答することはない。回答力は締切日の午後5時で締め切る。

◆問い合わせ先：精度管理問い合わせ窓口(☎0120-944296)フリーダイヤル。参加申込受付期間中の午前9時～午後5時(または、support@imgc.jp)

リニューアルしました! 「オンラインホテル予約サービス (日本医師会 会員特別割引)」

日本医師会ホームページのメンバーズルームに掲載中の「オンラインホテル予約サービス(日本医師会会員特別割引)」のサイトを、4月にリニューアルしました。



●新たにホテルのタイプや会員優待の有無で、絞り込みができるようになりました。

●現在、28のホテル及びホテルチェーン(全国約590のホテル)の協力を得て、日本医師会員のための宿泊割引制度を実施しております。一部のホテルでは、研修医用の特典や、婚礼・宴会等の優待がございます。

会員限定のサービスとして、どうぞご利用下さい。(メンバーズルームには、日本医師会ID及びパスワードによるログインが必要です)

問い合わせ先：日本医師会年金福祉課 会員福祉係
☎03-3946-2121(代) 平日9:30～17:00

第54回産業医学講習会

◆主催：日本医師会
 ◆後援：厚生労働省、中央労働災害防止協会、産業医学振興財団
 ◆日時：7月15日（土）～17日（月）
 ◆会場：日本医師会館大講堂
 ◆受講資格：日本医師会員または日本医師会認定産業医
 ◆受講料：日本医師会員18000円（税込）、日本医師会非会員27000円（税込）
 ◆受講人数：400名
 ◆講習内容：「産業医に必要な法的知識の解説」「産業医に必要な産業医学総論」「産業医に必要な実践各論」

「産業医に必要な健康管理概論」
 ◆取得単位：認定産業医制度生涯研修（更新・専門）計16・5単位
 ※新規に認定産業医を申請するための基礎研修の単位は取得できません。
 ◆申込方法：5月8日開設の全国医師会産業医部会連絡協議会WEBサイト（<https://www.sangyo-doctors.gr.jp/>）に掲載の抽選申込専用ページから申し込み願います。参加者は抽選により決定の上、抽選結果をメールでお知らせいたします。

◆抽選結果メール送付：5月下旬以降（予定）
 ◆問い合わせ先：①申込方法・入金確認等については講習会専用ヘルプデスク（☎03-67

「つづくる家康」

今年のNHKの大河ドラマでは、徳川家康が天下を取るまでに遭遇し決断を迫られる場面で、どのような決断を下すかを描くことでドラマが進んでいく。

徳川家康の腫物の治療の逸話である。家康は浜松城にいた時代に、粉瘤と思われる腫物に悩んでいた。どうする家康？家康は素人療治で、若い児小姓達に蛤の貝で腫物を挟んで引き抜かせ悪化させた。この時は、側近が勝屋長閑という唐人医



師を探し出し、治療を受け全快した。決断はうまくいかずとも、側近に恵まれうまくいった。

ともあれ、家康は「鳴くまで待つ時鳥」を美行するために長生きしなければならぬ。

そのためかどうか、家康は水泳などで体を鍛え、食事は麦飯を腹八分目。更に菓の知識にも通じ、自分で調合までした

日本医師会女性医師支援センター制作 動画“輝け女性医師！ みんなでつくる「働き方改革」” 配信のお知らせ



日本医師会女性医師支援センターでは、2024年4月から「医師の働き方改革」の制度が始まることを踏まえ、「女性医師の働き方」にフォーカスした動画“輝け女性医師！ みんなでつくる「働き方改革」”を制作いたしました。

本動画は、主に病院長、病院開設者・管理者等の方に対し、女性医師がキャリアを中断することなく、ライフステージに合わせた働き方を継続するためには、魅力ある職場づくり

が必要であることへの理解を深めて頂くことを目的として制作したものです。

編成としては、松本吉郎会長のあいさつに始まり、タイトルコール、課題として「医師の働き方改革」「女性医師の働きやすい環境整備」が提示された後、その具体例として再現ドラマ「①長時間労働で家族をおざなりにした結果」「②ライフイベントでの様々な悩み」が流れます。それを受け、角田徹副会長と神村裕子常任理事が解決のヒントをディスカッションしています。

その他、女性医師の働く環境の改善に取り組んでいる病院の事例や日本医師会が取り組んでいる事業として、「女性医師バンク」と「医療機関勤務環境評価センター」の紹介があり、まとめの一言、エンディングで締めくくっています（放映時間は約16分）。

なお、本動画は日本医師会ホームページのメンバーズルーム内にて配信しておりますので、ぜひご覧下さい。

動画配信

日本医師会ホームページ（<https://www.med.or.jp/>）
 「メンバーズルーム」内にある映像配信（講習会・研修会等）



問い合わせ先

日本医師会女性医師支援センター 事務局 ☎ jmawdbk@jmawdbk.med.or.jp

4270320 5月8日より開設予定）
 ②認定産業医制度・運営 9426138（直）

全国国民年金基金
日本医師・従業員支部 案内

基金掛金の1年前納について
 ～今年の掛金引落日は6月1日です～

令和5年度分の基金掛金を国民年金保険料とは合算せずに1年前納とされている加入者の方について、6月1日にご指定の金融機関口座より、基金掛金の引き落としが行われます。

引き落としとなる金額については、事前に「引落し案内通知書」が届きますので、ご確認をお願いいたします。

残高不足等で引き落としができなかった場合、本年度分の掛金納付は自動的に毎月払いの引き落としに変更となります。

この場合、1年前納による掛金の割引の適用が受けられなくなりますので、ご注意ください。

国民年金基金は、不確実な将来への備えとして、国民年金に上乗せを行う「公的な年金制度」であり、掛金前納による割引制度の他、毎年の掛金の全額が社会保険料控除の対象となるなど、優れた税制上の優遇措置が設けられています。

個人立診療所開設者などの第1号被保険者で未加入の方は、ぜひとも、基金への加入をご検討願います。

また、加入者の皆様には、ご家族や知人の方のご紹介を受け付けておりますので、よろしくお願いたします（薄謝進呈）。

問い合わせは基金事務局（☎0120-700650）まで。



書籍紹介



プライマリケア医のための 抗菌薬マスター講座 Ver.2

岩田健太郎 著



本書はプライマリケア医に向けて、抗菌薬の使い方と選び方を明確かつ軽妙に記した解説書の改訂版である。

初版刊行から10年以上が過ぎ、進歩した抗菌薬に関するエビデンスや新薬剤に関する情報、社会情勢の変化等を踏まえ、内容がアップデートされている。

著者の岩田氏は、前書の中で「抗菌薬を正しく使う」とは、「抗菌薬を必要としている患者にもっとも正しい、ベストの抗菌薬を用いること」を指している。

診療を始めとした医療活動を行いながら、他科の知識を吸収していくのは、臨床医にとって容易なことではないだろう。

本書はクリニックにおいて日々臨床に接する著者が、循環器診療を行う上で「これだけは知っておきたい」という症状やその対処法をフローチャートなどにより、コンパクトかつ的確な説明でガイドした一冊となっている。

専門外の医師に特求められるのは、自身で対応できるケースなのか、専門医に紹介すべきなのかの判断であろう。その点、本書には紹介すべき疾患・症状が躊躇なく記述されており、その知識を得られるだけでも本書を読むメリットがあるのではないかと思われる。

あなとも名医！
救急外来での検査
値の読み方
ルーチンを超えろ！
薬師寺泰匡 著

「標準的な医療を提供しよう」とすることで、検査はルーチン化され、考えなしに日々搬送される患者にベルトコンベアー式に対応がなされている側面もあるのではないかと危惧しています。これは、ルーチン化された検査、プロトコル化した検査、プロトコル化した検査に對し、救急医として前線で臨床に当たる著者が本書の中で問題提起した言葉である。

第1章「救急での基本検査」、第2章「それぞれの検査項目の意義」では教科書的に検査の紹介をしつつも、「救急での検査」について、活用してもらえないものばかりであり、一読に値する内容となっていない。

第3章「症例ごとの追加検査とその意義」では、実際の救急外来の現場をイメージした会話パートから始まり、症例を追いつつながら基本検査、追加検査と、それらの結果をどのようにに臨床診断や方針決定に生かすかという過程が描かれている。

学生や研修医はもちろん、既に救急現場で活躍している医師にとって、気付きのある一冊と言えよう。

定価 3630円(税込)
発行 新興医学出版社

令和5年5月8日(コロナ類型変更)以降の「みんなで安心マーク」掲示終了のご依頼

日本医師会では、コロナ禍において患者さんが安心して医療機関に行けるよう、感染防止対策を徹底している医療機関に対して「新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施医療機関みんなで安心マーク」(以下、「みんなで安心マーク」)の発行を令和2年8月より開始し、多くの医療機関で院外やホームページなどにご掲示頂いていました。

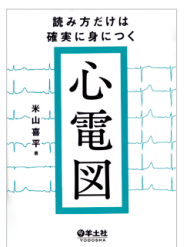


本来は「安心」といった表現を医療機関外やホームページ等に掲げることにはできませんが、「みんなで安心マーク」は、日本医師会が策定し、内閣官房に登録した唯一の医療機関の感染対策ガイドライン(以下、「GL」)を根拠とし、同GLに基づくチェックリストにより、日本医師会が該当医療機関に発行(認証)する仕組みであることから、厚生労働省関係事務連絡により、コロナ流行を踏まえた特例的対応として認められていたものでした。

このため、新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが見直され、GLも廃止となる本年5月8日以降は、「みんなで安心マーク」発行医療機関リストの掲載も終了し、特例の適用がなくなるため、医療機関外の掲示やホームページ等への掲載はできないこととなります。

従いまして、「みんなで安心マーク」の掲示等をされている医療機関には、誠に恐れ入りますが、5月8日から3カ月程度の間院外やホームページ等へのマークの掲示を終了頂きますようお願いいたします。

これまで「みんなで安心マーク」をご活用頂き、ありがとうございました。



読み方だけは確実に身につく心電図

米山喜平 著

著者は言う。「不思議だと思いませんか?」と。心電図の教育は世の中にあふれている。解説書は数多くあり、最近ではセミナーや解説動画もある。授業も受けた、心電図試験も受かった、心電図も自分なりに勉強した。しかし、現場に出て心電図を目の当たりにすると「読めない」という。恐らく理解することま

本書はその点に特化している。どのような心電図であってもこの順番で読む、という軸となる読み方を紹介。その上で、心電図を実際に読みながら、徹底的に読み方の定着、補強を行えるよう工夫されており、心電図に悩む研修医などにお勧めの一冊となっている。

定価 3960円(税込)
発行 羊土社

お知らせ

日本医師会のLINE公式アカウントからは今後さまざまな情報を提供していく予定です。ぜひ友だち追加をお願いします。

